

## 【施策01】 地域コミュニティ

～みんなの支えあいで地域が元気なまち～

◆展開方向01：多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。

◆展開方向02：地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。

展開方向01	1 中央地区特色ある地域活動推進事業費	6
	2 小田地区特色ある地域活動推進事業費	7
	3 大庄地区特色ある地域活動推進事業費	8
	4 立花地区特色ある地域活動推進事業費	9
	5 武庫地区特色ある地域活動推進事業費	10
	6 園田地区特色ある地域活動推進事業費	11
展開方向02	7 コミュニティ助成事業費	12
	8 車座集會事業費	13
	9 市民提案型制度推進事業費	14
	10 市民運動推進事業費	15
	11 市民活動情報発信事業費	16
	12 あまがさきチャレンジまちづくり事業費	17
	13 あまがさき市民まつり事業補助金	18
	14 尼崎市社会福祉協議会補助金	19
	15 みんなの尼崎大学事業費	20

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	中央地区特色ある地域活動推進事業費	1E2K	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	—		展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成9年度		
会計	01 一般会計		行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
局	総合政策局	課 中央地域課	所属長名	北 明徳

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が憩い、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	地域資源等を活かした市民との協働の取組、顔の見える関係づくりに取り組む。地域で活動されている方々との関係づくりを進めるとともに、地域においてお互いの顔が見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組む。
実施内容	<p>○阪神尼あんしんまちづくり事業 迷惑駐輪・不法駐車対策、不法広告物の一斉取締り・除却・啓発活動、啓発推進キャンペーン、中央地区一斉防犯パトロール 実施回数:延べ 18回 参加人数:延べ 1,037人</p> <p>○城下町(中央地区)地域愛醸成事業 1 広報紙「中央ぶらぶら通信」の発行:5回、SNS版「中央ぶらぶら通信」の配信 Instagram・Facebook:各89回 2 講座実施回数:4回 参加人数:延べ195人 3 振り込み詐欺対策スイングポップの製作(地元商店街・尼崎南警察署との連携事業) 4 サンビックまつりの開催(共催事業) 参加人数:3,123人 5 詐欺対策通帳ケースの製作(尼崎信用金庫窓口で配布)</p> <p>○地域予算事業 レクリエーション用具貸出事業 イベント主催者や各種団体が中央地区内でイベントを行う際に必要な貸出用レクリエーション用具の購入(テント、テント用重石、スピーカー)</p>

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)				単位	人				
目標・実績	目標値	—	達成年度	— 年度	平成29年度	1,083	平成30年度	1,494	令和元年度	4,355
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: — ) 「城下町(中央地区)地域愛醸成事業」は平成30年度から開始しており、令和元年度から共催事業と位置付けているサンビックまつりを除くと参加者数は例年と同程度。また、尼崎城や観光案内所、寺町と連携した事業に取り組む、市外からも参加がある等、中央地区の魅力発信を行った。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持) 令和元年度から地域振興センターと公民館が一つの課になったため、令和2年度からは、城下町(中央地区)地域愛醸成事業で実施していた講座を生涯学習推進事業に移行して実施していく。また、広報紙「ぶらぶら通信」については、地域担当職員を中心に、地域の人と連携して引き続き中央地区の魅力発信していく。</p>									

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	858	1,041	
需用費	1,306	738	676	事業用消耗品費等
報償費	167	120	222	講座出演料
使用料及び賃借料	94		111	会場使用料等
旅費			20	
その他	12,778		12	
人件費 B	33,265	23,760	29,392	
職員人工数	4.15	2.76	3.73	
職員人件費	32,322	21,616	27,909	
嘱託等人件費	943	2,144	1,483	
合計 C(A+B)	47,610	24,618	30,433	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された
Cの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	250	250	市民福祉振興基金(R1～R2)
一般財源	35,410	24,368	30,183	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	小田地区特色ある地域活動推進事業費	1E2L	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成9年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。				
行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組				
局	総合政策局	課	小田地域課	所属長名	仁尾 克己

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が憩い、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	小田地区の地域資源等を活かした市民との協働の取組、顔の見える関係づくりに取り組む。地域で活動されている方々との関係づくりに加え、地域においてお互いの顔の見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組むにあたり、「地域予算」を柔軟に活用していく。
実施内容	<p>&lt;令和元年度実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ウェルカムパーティ事業 身近な出合いの場を提供することで、若い世代が地域活動に参加するきっかけを作り、将来にわたり地域を支えていく新たな人材の発掘と育成につなげるために実施した。 ・おしゃべりカフェ 実施回数20回 参加者数延べ175人 ・ひよこルーム 実施回数10回 参加者数延べ136人</li> <li>○地域情報誌発行事業 地域でのイベントや事業、ボランティア活動などの地域情報をまとめた「地域情報誌」として発行し、地域に回覧した。 ・地域活動情報誌「小田がまち版」の発行 発行回数5回 発行枚数のべ14,200枚</li> <li>○地域予算事業 地域における顔の見える関係づくりを支援するため、貸出用のテント等を購入した。また、小田地区の魅力を市民自身が発掘・発信することで、地区住民の学びと愛着の醸成を図る「オダふおとコンテスト」を実施した。 ・第1回オダふおとコンテスト 実施回数1回 参加者数21人</li> </ul>

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)				単位	人
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	人
			平成29年度	321	平成30年度	236
			令和元年度	332		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウェルカムパーティ事業」は、若い世代が地域と繋がる場を設けることで、新たな人材発掘につなげるために実施したが、参加者が固定化するなどの課題が見られた。</li> <li>・「地域情報誌発行事業」「地域予算事業」は、地域情報の発信や青少年が地域と関わる内容を昨年よりも充実させることができた。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルカムパーティ事業は、毎回参加者が固定化しているとともに、家庭・地域子育て力向上支援事業の実施内容と重複する内容でもあることから、令和2年度以降は廃止した。</li> <li>・地域情報誌発行事業は、地域情報の発信に更に注力することで、まず、地域活動を住民に広く知ってもらうよう取り組む。</li> <li>・地域予算事業は、青少年などの若年層を対象とした事業を実施し、地区への愛着の醸成と地域活動に参画するきっかけとなるよう取り組む。</li> </ul>					

### ③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	593	615	
需用費	1,306	534	385	各種事業消耗品等
報償費	167	40	189	講師謝礼
使用料及び賃借料	94	19	9	会場使用料
補助金等	12,200			
その他	578		32	
人件費 B	33,265	24,190	24,532	
職員人工数	4.15	4.07	4.09	
職員人件費	32,322	21,730	22,045	
嘱託等人件費	943	2,460	2,487	
合計 C(A+B)	47,610	24,783	25,147	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された。
○の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	250	250	市民福祉振興基金(R1~R2)
一般財源	35,410	24,533	24,897	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	大庄地区特色ある地域活動推進事業費	1E2M	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	令和元年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。				
行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組				
局	総合政策局	課	大庄地域課	所属長名	巽 賢二

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が憩い、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	地域資源等を活かした市民との協働の取組、顔の見える関係づくりに取り組む。また、地域で活動されている方々との関係づくりを進めるとともに、地域においてお互いの顔の見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組むにあたり、「地域予算」を柔軟に活用していく。
実施内容	<p>【まちづくりワークショップ】 地域のまちづくりの課題に対し、広く地域の意見を募ることができる協働の仕組みとして、市で選出した地域住民と、地域の在住在勤要件を付した公募市民が参加するワークショップ形式による協議体を設置し、第1回目のまちづくりワークショップを開催した。</p> <p>【図書購入】 子ども向けの絵本や書籍を購入し、生涯学習プラザにおける子どもたちの憩いの場づくりを実施した。</p> <p>【大庄地域冊子】 大庄地域の自然・歴史・伝統を学び、地域への愛着や誇りに繋がる地域活動等を紹介する冊子の作成に着手した。</p>

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)				単位	人
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	人
			平成29年度	—	平成30年度	—
			令和元年度	12		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧大庄西中跡地活用について、地域住民が参画するまちづくりワークショップを設置しており、令和2年度中に地域の意見を取りまとめることとしている。</li> <li>・子ども向けの絵本や書籍を中心に購入し、1階のフリースペースに図書を充実させた。</li> <li>・冊子作成にあたり、関係課と協議し、歴史・文化の記述や掲載写真の選定などの作業を進めた。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりワークショップなど協働の仕組みづくりを取り入れながら、地域の理解を深め意見をとりまとめていく。</li> <li>・図書の購入やフリースペースの活用など、子どもたちが利用しやすいような環境づくりを行う。</li> <li>・冊子は、地域住民の意見を踏まえながら、令和2年度中の完成を目指す。</li> </ul>					

### ③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	261	500	
需用費	1,306	237	270	冊子作成用消耗品、図書
報償費	167	24	189	まちづくりワークショップ報償費
旅費			20	
役務費			12	
その他	12,872		9	
人件費 B	33,265	9,555	31,043	
職員人工数	4.15	0.40	3.92	
職員人件費	32,322	2,716	26,404	
嘱託等人件費	943	6,839	4,639	
合計 C(A+B)	47,610	9,816	31,543	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された。
○の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	200	250	市民福祉振興基金(R1~R2)
一般財源	35,410	9,616	31,293	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	立花地区特色ある地域活動推進事業費	1E2N	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成25年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。				
行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組				
局	総合政策局	課	立花地域課	所属長名	奥平 裕久

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が頼り、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	ウエルカムパーティー事業では、市民・事業所・行政が連携し、子育てをキーワードに若い世代が地域への関心や愛着を持つよう身近な地域での出会いの場を様々な形で提供する。 地域予算事業では、地域資源等を活かした市民との協働の取組、顔の見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組む。
実施内容	令和元年度実績 【ウエルカムパーティー事業】 ・たちはなウエルカムパーティー 実施回数1回 参加人数313人 ・おやこ食農体験ツアー 実施回数2回 参加人数37人 【地域予算事業】 ・ピバ！たちはなのマナビバ！ 打ち水大作戦 in たちはな2019 実施回数1回 参加人数66人 子どもも大人も楽しめる20の楽しい授業(ミニサマーセミナー) 開催期間2日間 参加人数165人 ・シン・プラザ会議 実施回数3回 参加人数47人 ・立花地域で活動されているみなさんと交流会 実施回数1回 参加人数15人

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)	単位	人								
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	305	平成30年度	676	令和元年度	643
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度から配置された地域担当職員は、それぞれの担当校区において顔の見える関係を築きつつある。</li> <li>新たに「ピバ！たちはなのマナビバ！」及び「立花地域で活動されているみなさんと交流会」を開催し、地域活動への新たな参画者を得たほか、地域で活動されている方向士のつながりもできた。実際に参加者による連携により新たな活動も生まれた。</li> <li>地域活動団体を支えている人々の高齢化が課題である。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動になじみの薄い世代や関わるきっかけがない方々が地域活動に関心を持つきっかけを作り、地域活動に関わる住民のすそ野を広げていく。</li> <li>地域担当職員が様々な地域活動や団体、人を知る中で、地縁、志縁に関わらず、活動する方々の間を必要に応じてつなぎ、ゆるやかなネットワークを築いていく。</li> <li>生涯学習推進事業と一体的に取り組むことで、学びから地域活動へ、地域活動から学びへとつなげていく。</li> </ul>										

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	378	688	
需用費	1,306	283	394	事業用消耗品等
報償費	167	90	231	講師謝礼
役員費		4	17	保険料
旅費		1	20	視察等旅費
その他	12,872		26	
人件費 B	33,265	25,406	20,153	
職員人工数	4.15	3.40	2.59	
職員人件費	32,322	24,773	19,590	
嘱託等人件費	943	633	563	
合計 C(A+B)	47,610	25,784	20,841	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された
〇 国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	250	250	市民福祉振興基金(R1~R2)
一般財源	35,410	25,534	20,591	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	武庫地区特色ある地域活動推進事業費	1E2O	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成9年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。				
行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組				
局	総合政策局	課	武庫地域課	所属長名	富田 聡一郎

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が頼り、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	武庫地区において地域資源等を活かした市民との協働の取組、顔の見える関係づくりに取り組む。地域で活動されている方々との関係づくりとともに、地域においてお互いの顔の見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組むにあたり、「地域予算」を柔軟に活用していく。
実施内容	〇清流にこころふれあう道づくり(武庫小と武庫中の間の公共空間の整備)事業 1 武庫小学校との連携(ホタルの住む環境づくり 3年生の環境学習) 実施回数4回 参加人数588人 2 拠点整備、水路清掃、花壇植栽等 実施回数11回 参加人数195人 3 打ち水や花見、月見、七夕など公共空間を使った各種イベントの実施 実施回数4回 参加人数320人 〇ウエルカムパーティー事業 1 あつまれ！ピバ男子(ベビーマッサージや救急法を学ぶいっく育児参加のための体験講座) 実施回数4回 参加人数44人 2 子育て支援団体交流会 参加人数 15人 3 親子参加イベントいちごちゃんフェスタ(コミュニティルーム武庫運営委員会と共催) 参加人数275人 4 多世代交流イベントクリスマスライブパーティー(武庫荘総合高校と共催) 参加人数182人 〇地域予算事業 生涯学習プラザの愛称を公募するにあたり、地域コミュニティや市政に関心をもってもらえるよう、3回連続のワークショップを企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期となった。

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)	単位	人								
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	1,505	平成30年度	1,550	令和元年度	1,619
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清流にこころふれあう道づくり事業については、地域の特徴である農業用水路を活用し、子どもたちが自然とふれあえる空間づくりを市民、学校との協働で取り組んでおり、様々な世代間の交流や人と自然とのふれあいに繋がっている。</li> <li>ウエルカムパーティー事業は、「転出入が多く、地域活動を知らない人も多い」という地域の課題解決に向け、「子育て」をキーワードに幅広い世代が集まる交流の場となっている。</li> <li>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</li> <li>活動団体の担い手が固定化し徐々に高齢化しているため、新たな担い手の育成が必要である。</li> <li>地域の活動団体と職員が顔の見える関係を築き、地域の特性や課題に合わせた新たな講座の企画や事業の実施について検討する。</li> <li>地域予算事業では、生涯学習プラザの愛称募集とアイデア考案のためのワークショップを企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により開催できなかったため、今年度は感染症防止策を講じながら企画を実施する。企画や実施は民間会社に委託することで、行政職員に必要なファンリレーション手法を学ぶとともに、今まで行政との関わりが希薄であった若者世代の参加を促すなど、新たな担い手づくりに繋げる。</li> </ul>										

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	913	1,106	
委託料	577	792	448	清流にこころふれあう道づくり事業等
需用費	1,307	81	362	チラシ印刷費等
報償費	167	40	239	講師謝礼
使用料及び賃借料	94		25	
その他	12,200		32	
人件費 B	33,265	4,464	8,394	
職員人工数	4.15	0.57	1.05	
職員人件費	32,322	4,464	8,162	
嘱託等人件費	943		232	
合計 C(A+B)	47,610	5,377	9,500	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された
〇 国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	300	250	市民福祉振興基金(R1~R2)
一般財源	35,410	5,077	9,250	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	園田地区特色ある地域活動推進事業費	1E2P	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	—		展開方向	01-1 多様な主体が参画し連携する、地域分権型社会づくりに取り組みます。
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成9年度	行政の取組	01-1 地域分権型社会に向けた取組
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
局	総合政策局	課 園田地域課	所属長名	松原 裕二

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域に愛着を持ち、人々が憩い、楽しみ、学ぶことができる地域にするため、多様な主体と協働で取り組むことにより、地域特性を活かしたまちづくりを目指す。また、地域課題解決のため、身近な地域における市民、事業所、行政のネットワークを広げることで、将来的に学びと地域活動が循環し、地域発意の課題解決や魅力向上の取組が広がる環境づくりを目指す。
事業概要	各地区において地域資源等を活かした市民とのまちづくりに取り組む。地域で活動されている方々との関係づくりとともに、地域においてお互いの顔の見える関係を築いていくための学びや交流の場づくりに取り組むにあたり、「地域予算」を柔軟に活用していく。
実施内容	○自然と文化の森構想事業 1 公開型意見交換の場「プラットフォーム」の開催 令和元年度実績 11回、参加者数 68人 2 市民の主体活動の支援(農作業体験等) 各種イベント 令和元年度実績54回、参加者数 4,168人 ○ウェルカムパーティ事業(園田) 令和元年度実績 (ママカフェ)全10回、参加人数162人(ウェルカムブック編集委員会)全5回、参加人数30人(そのつ子フェスティバル)全1回、参加人数83人 ○地域予算事業費 1 「園田北小学校区 防災マニュアル」の作成 1,500部 2 「園田地域において目指すべき方向性の構築等」を旨とした課内研修の実施 実施回数4回 3 「園田地域における目指すべき方向性」に係る勉強会(以下、園田地域勉強会)の実施 実施回数1回 ※当課職員に加え、地域活動に取り組んでいる地域住民も参加 4 テント貸出による地域イベント促進事業の実施 テント購入数1基

### ②事業成果の点検

目標指標	イベント等の参加者数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)		単位	人							
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	4,059	平成30年度	4,429	令和元年度	4,511
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大による影響から中止となった回もあり、前年度より参加者が減少した。(プラットフォーム)</li> <li>・ポスティングや子育て支援関係施設などで広報に取り組んだ結果、新規参加者が増加した。(ママカフェ)</li> <li>・園田の子育て情報を掲載した「ウェルカムブック」について、子育て世代の市民が主体となって作成に取り組んだ結果、地域活動に参加する意欲を持った人が増加した。(ウェルカムブック)</li> <li>・既に地域活動を行っているリーダーと園田地域の特性や課題等を共有したとともに、今後の目指す姿について協議することができた。(園田地域勉強会)</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々参加者数が減少している状況であり、これまでと違った視点で協議等ができるようプラットフォームの在り方について検討を行っていく。(プラットフォーム)</li> <li>・編集会議やそれに付随した新規講座などを実施し、地域活動に積極的に参加する人を更に増やす。(ウェルカムブック)</li> <li>・引き続き、地域活動を担っているリーダー等との協議を進める中で、園田地域における目指すべき方向性の構築を目指す。(園田地域勉強会)</li> </ul>										

### ③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	14,345	456	719	
需用費	1,306	303	458	事業用消耗品費等
報償費	167	153	204	講師謝礼等
旅費			20	
役務費			20	
その他	12,872		17	
人件費 B	33,265	23,120	21,008	
職員人工数	4.15	2.88	2.70	
職員人件費	32,322	21,861	20,445	
嘱託等人件費	943	1,259	563	
合計 C(A+B)	47,610	23,576	21,727	当該事業はコミュニティ助成事業を除き、令和元年度から各地域課ごとの事業に再編された。
国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	250	250	市民福祉振興基金(R1~R2)
一般財源	35,410	23,326	21,477	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	コミュニティ助成事業費	1E1D	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	—		展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組めます。
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度 —	行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
局	総合政策局	課 中央地域課、小田地域課、大庄地域課、立花地域課、武庫地域課、園田地域課	所属長名	北 明徳、仁尾 克己、巽 賢二、奥平 裕久、富田 駿一郎、松原 裕二

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	(一財)自治総合センターが行う宝くじの社会貢献広報事業による助成金(一般コミュニティ助成事業)を活用した、地域の活性化と住民のコミュニティ意識の醸成を図るための補助事業であり、補助金交付決定団体に対して補助金を交付する。
事業概要	地域の活性化と住民のコミュニティ意識の醸成を図ることを目的とする宝くじの社会貢献広報事業による助成金を活用し、自治会等が行うコミュニティ活動に必要な設備等の整備に対して補助を行う。
実施内容	・西立花社会福祉連絡協議会が実施する西立花地域交流事業における資材(やぐらステージ)整備事業に対して補助を行った。 補助金交付額: 2,500,000円

### ②事業成果の点検

目標指標	申請件数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)		単位	件							
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	2	平成30年度	3	令和元年度	2
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <p>本事業の実施に伴い、地域のイベントや催事の取組がスムーズに行われるようになり、地域住民の憩いの場、交流の場として「夏まつり」など地域の伝統文化として、地域コミュニティ活動を継続できたことで、地域住民及び周辺住民からも喜ばれ、より一層の交流を図ることができた。</p> <p>また、アルミ製やぐらステージは軽量で汎用性も高いので、地域の伝統文化の継承・発展を目指す「地域交流夏まつり」はもとより、青少年育成、高齢者の生きがい促進、異世代交流、周辺住民との交流など様々な活動の場で活用できるため、一層の地域コミュニティ活動活性化につなげる契機となった。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <p>各種広報や各地域課を通じ、自治会等に本事業の周知を行っていくとともに、地域担当職員が地域の様々な主体と顔の見える関係づくりを進める中で、本助成事業を必要とする団体へと繋いでいく。</p>										

### ③事業費

(単位:千円)

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	12,200	2,500	2,500	
補助金等	12,200	2,500	2,500	コミュニティ助成事業補助金
人件費 B	951	719	1,186	
職員人工数	0.12	0.11	0.17	
職員人件費	951	719	1,186	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	13,151	3,219	3,686	
国庫・県支出金				
市債				
その他	12,200	2,500	2,500	コミュニティ助成収入
一般財源	951	719	1,186	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	車座集會事業費	1E1F	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—		展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。	
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成15年度			
会計	01 一般会計		行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援	
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
局	総合政策局	課	協働推進課	所属長名	西田 真弓

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市民(市内在住、在勤、在学者)と市長が直接対話する機会を持つことで、市民と行政の相互理解を図るとともに、市民参加のまちづくりを積極的に進めることを目的としている。																							
事業概要	市民の市政への関心を高めるとともに、まちづくりに関する情報の共有化を推進するため、市民と市長が直接意見交換を行う。																							
実施内容	1 実施手法 次の3つの手法で実施 ①「フリートーク型」: テーマ、対象者を特定せず参加者を公募 ②「テーマ型」: テーマを設定した上で参加者を公募又は指名 ③「ターゲット型」: 対象者を特定して参加者を公募又は指名																							
	2 令和元年度実施内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th>手法</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> <th>テーマ又は対象者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①フリートーク型</td> <td>5月23日</td> <td>22人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>②テーマ型</td> <td>7月26日</td> <td>12人</td> <td>生涯学習プラザの機能と住民参加</td> </tr> <tr> <td>③ターゲット型</td> <td>10月23日</td> <td>23人</td> <td>尼崎の教育に期待すること</td> </tr> <tr> <td>③ターゲット型</td> <td>2月5日</td> <td>13人</td> <td>市社会福祉協議会</td> </tr> </tbody> </table>	手法	日付	参加人数	テーマ又は対象者	①フリートーク型	5月23日	22人	—	②テーマ型	7月26日	12人	生涯学習プラザの機能と住民参加	③ターゲット型	10月23日	23人	尼崎の教育に期待すること	③ターゲット型	2月5日	13人	市社会福祉協議会			
	手法	日付	参加人数	テーマ又は対象者																				
①フリートーク型	5月23日	22人	—																					
②テーマ型	7月26日	12人	生涯学習プラザの機能と住民参加																					
③ターゲット型	10月23日	23人	尼崎の教育に期待すること																					
③ターゲット型	2月5日	13人	市社会福祉協議会																					
3 過去の実施結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①フリートーク型</td> <td>0回</td> <td>0回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>②テーマ型</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>③ターゲット型</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3回</td> <td>1回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>80人</td> <td>9人</td> <td>70人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	①フリートーク型	0回	0回	1回	②テーマ型	2回	0回	2回	③ターゲット型	1回	1回	1回	計	3回	1回	4回	参加人数	80人	9人	70人
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																					
①フリートーク型	0回	0回	1回																					
②テーマ型	2回	0回	2回																					
③ターゲット型	1回	1回	1回																					
計	3回	1回	4回																					
参加人数	80人	9人	70人																					

### ②事業成果の点検

目標指標	車座集會の参加者人数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)	単位	人										
目標・実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>—</th> <th>達成年度</th> <th>—年度</th> <th>平成29年度</th> <th>80</th> <th>平成30年度</th> <th>9</th> <th>令和元年度</th> <th>70</th> </tr> </thead> </table>	目標値	—	達成年度	—年度	平成29年度	80	平成30年度	9	令和元年度	70		
目標値	—	達成年度	—年度	平成29年度	80	平成30年度	9	令和元年度	70				
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、「フリートーク型」、「テーマ型」、「ターゲット型」の3つの手法で合計4回実施し、様々な立場の市民と意見交換を行うことができた。</li> <li>一方で、テーマによっては、タウンミーティング等、市長が直接市民と意見交換する場が他にもあることから、幅広い層の市民に参加してもらえるよう、テーマ設定や開催方法を工夫していく必要がある。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮しつつ、感染症対策を徹底した上で、幅広い層の市民に参加してもらえるよう、テーマや開催日時を工夫して実施する。</li> </ul>												

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	52	42	65	
報償費			16	手話等謝礼
需用費	52	40	40	消耗品等
使用料及び賃借料		2	9	会場使用料
人件費 B	1,140	1,523	1,788	
職員人工数	0.18	0.23	0.23	
職員人件費	1,140	1,523	1,788	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	1,192	1,565	1,853	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	1,192	1,565	1,853	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	市民提案型制度推進事業費	1E1H	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—		展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。	
事業分類	ソフト事業	事業開始年度 平成21年度			
会計	01 一般会計		行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援	
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
局	総合政策局	課	協働推進課	所属長名	西田 真弓

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	行政と市民等が、課題や目標を共有しながら、それぞれの特性を生かして役割を担い、補い合いながら、よりよいまちづくりに取り組むために、市民参加・参画の機会の充実を図り、協働のまちづくりを推進する。
事業概要	市民等の市政参画の推進及び政策提案機会の拡大等を図る、市民提案型の委託制度及び補助制度の運用。
実施内容	○提案型事業委託制度 市民団体や民間事業者の知恵とアイデアが盛り込まれた提案を募り、その内容が市民にとって有益であれば委託化を進める。こうした取組により、行政の効率化とともに、市民・事業者の政策提案機会の拡大、シチズンシップの向上、社会的な起業の振興などを図る。(令和元年度 新規提案2件、採択実績1件)
	○提案型協働事業制度 市民もしくは行政からの提案をもとに、市民と行政がそれぞれの特性を生かしながら、地域課題や社会的課題の解決に向けた協働の取組を進める。(令和元年度 新規提案1件(市民提案型)、採択実績0件)

### ②事業成果の点検

目標指標	提案型事業委託の応募団体数(累計)(上段)及び提案型協働事業の応募団体数(累計)(下段)(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	団体																			
目標・実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>47</th> <th>達成年度</th> <th>令和4年度</th> <th>平成29年度</th> <th>22</th> <th>平成30年度</th> <th>24</th> <th>令和元年度</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>32</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	目標値	47	達成年度	令和4年度	平成29年度	22	平成30年度	24	令和元年度	26		32	22	22	22	22	23	24	24		
目標値	47	達成年度	令和4年度	平成29年度	22	平成30年度	24	令和元年度	26													
	32	22	22	22	22	23	24	24														
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: 下回った)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度実績を踏まえ、毎年8団体からの提案を目標としているが、令和元年度は3件と下回った。</li> <li>これまで、委託化した全ての事業で事業効果が向上したことや、補助期間満了後新たに予算化される事業があったほか、提案について提案者と所管課が協議を行う中で、相互理解が図られるなどの成果があった。</li> <li>一方、制度の一層の活用を目指し、より提案しやすく、実現しやすい制度とするため、制度の一本化及び構想段階での提案を可とする等の改善を施した「市民提案制度」を構築した。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体、事業者等に対し、制度の魅力について、市報、チラシ、SNS、ダイレクトメール等による積極的なPRを行い、新制度(市民提案制度)の効果的な周知・広報に努める。</li> <li>提案者及び関係各所との丁寧な協議及び調整に努めるなど、効果的な制度運用に努める。</li> <li>市の課題認識を募集テーマとして設定し、提案の促進を図る。</li> <li>地域社会の課題や事業構築の手法についての学びの機会の提供といった、提案の促進を図るための方策について検討を行う。</li> <li>別途、令和2年度から運用を開始した「協働契約」(官民が対等な関係の下で協力をし合い取り組んでいくための手法)とも連動し、実施段階でのよりよい協働の実現に努める。</li> </ul>																					

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	477	303	756	
報償費	50	50	297	協働事業評価会議委員謝礼
需用費	42	72	47	消耗品費等
使用料及び賃借料		1	12	制度説明会会場使用料
負担金補助及び交付金	385	180	400	協働事業補助金
人件費 B	7,451	4,934	9,367	
職員人工数	0.94	0.63	1.24	
職員人件費	7,451	4,934	9,367	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	7,928	5,237	10,123	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	7,928	5,237	10,123	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	市民運動推進事業費	IE1M	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	尼崎市民の暮らしの安全を推進する条例等			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	昭和38年度	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。			
行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援			
局	総合政策局	課	協働推進課	所属長名
				西田 真弓

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	生活環境を改善し、住みよいまちづくりを促進するために、そこに住み・集い・働く人々が、わがまち意識を持ち、自発的に事業に参加する状態を目指すもの。
事業概要	市民の創意と参加によって明るく住みよくなまちなちを目指すため、市民運動を総合的に推進し、尼崎市民の暮らしの安全を推進する条例をもとに、市民運動推進委員会、市民運動各地区推進協議会事業への支援及び10万人わがまちクリーン運動を実施する。
実施内容	<p>1 市民運動推進委員会総会(決算額:3千円 委員会総会会場使用料) 当該委員会は、市長が本部長を務め、各地区推進協議会、各種団体・関係行政機関73団体、学識経験者2名から構成し、市民の創意と参加により明るく住みよくなまちなちを目指す、市民運動を総合的に推進する。 【令和元年度総会実績】開催日:令和元年7月30日(火) 場所:小田北生涯学習プラザ 出席者数:37人</p> <p>2 市民運動各地区推進協議会事業補助(決算額:7,200千円 @1,200千円×6地区) 各地区における連帯感の醸成とコミュニティづくりの促進を図るとともに、地域で活動するグループ・団体相互の交流と活動の発展に資する事業を促進するため、地域の各種団体で構成されている市民運動各地区推進協議会が実施する事業に対して補助する。</p> <p>3 10万人わがまちクリーン運動(決算額:665千円 委託料及び需用費) 市制80周年を契機に、市・市民・事業者が一体となり取り組んだ、全市一斉のクリーン運動を継続して実施することにより、市民自らの手でまちの美化を推進するとともに、市民のわがまち意識の醸成を図る。 【令和元年度実績】参加者数:26,937人 ごみ収集量:24.4トン</p>

### ②事業成果の点検

目標指標	10万人わがまちクリーン運動参加者人数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)						単位	人			
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	30,534	平成30年度	29,409	令和元年度	26,937
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、市民運動推進委員会の役員会・総会の後、各団体の取組の一例となるよう、特殊詐欺についての講演会・キャンペーンを行った。また、役員会において、そのあり方を再確認し、年度ごとにテーマを設定して全市一体的な取組を行うこと、団体からの情報発信や情報共有により、構成団体間の連携を強化していくことなどの見直しを行った。</li> <li>市民運動各地区推進協議会でも、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、催しの実施が困難な時期もあったが、一年を通して様々な活動が行われたことから、一定の市民活動支援につながったといえる。</li> <li>クリーン運動参加者数(職員数含む)は平成29年度以降減少傾向にある。地域への愛着と誇りを高める運動として市民に広く浸透するよう関係団体と協力し継続実施していく。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民運動推進委員会としては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、同委員会の構成団体と連携し新たに設定した取組テーマに沿って全市一体となって取り組んでいく。</li> <li>クリーン運動についても、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、可能な範囲での清掃活動の実施を呼びかけていく。</li> </ul>										

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	7,890	7,868	8,030	
需用費	180	182	179	クリーン運動用ゴミ袋
委託料	497	483	637	クリーン運動収集委託
使用料及び賃借料	13	3		総会等会場使用料
負担金補助及び交付金	7,200	7,200	7,200	事業補助金
人件費 B	4,281	4,795	4,353	
職員人工数	0.54	0.63	0.56	
職員人件費	4,281	4,795	4,353	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	12,171	12,663	12,383	
国庫・県支出金				
市債				
その他	7,508	7,375	7,200	市町村振興協会市町交付金
一般財源	4,663	5,288	5,183	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	市民活動情報発信事業費	IE1O	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	—			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成23年度	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。			
行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援			
局	総合政策局	課	協働推進課	所属長名
				西田 真弓

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	協働のまちづくりを推進するため、様々な段階での市民参加・参画の機会の充実を図る。市民・事業者・行政が、課題や目標を共有しながら、それぞれが持つ特長を生かした役割を担い、補い合いながら、よりよいまちづくり、地域づくりに取り組んでいる状態を目指すもの。																		
事業概要	「協働のまちづくりの基本方向～きょうDOガイドライン～」(平成19年7月策定、平成26年3月改訂)に基づき、SNSなどを活用して市民活動団体の情報や様々な事業の情報を収集し、市民活動ポータルサイト「市民活動の広場あまがさき」を介して市民へ発信していく。																		
実施内容	<p>1 事業内容 インターネット上での市民活動の総合窓口「市民活動の広場あまがさき」を開設し、市民活動団体の情報や様々な事業に関する情報の収集・発信を行っている。平成23、24年度に提案型協働事業として試行的に実施(提案団体に補助金を交付し、協働で運営)し、平成30年度からは、業務委託により運営を行っている。</p> <p>2 事業実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均月間アクセス数</td> <td>1,659</td> <td>2,103</td> <td>2,866</td> <td>2,685</td> <td>2,420</td> </tr> <tr> <td>平均月間イベントカレンダー掲載事業数</td> <td>218</td> <td>205</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>258</td> </tr> </tbody> </table>	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均月間アクセス数	1,659	2,103	2,866	2,685	2,420	平均月間イベントカレンダー掲載事業数	218	205	211	209	258
年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度														
平均月間アクセス数	1,659	2,103	2,866	2,685	2,420														
平均月間イベントカレンダー掲載事業数	218	205	211	209	258														

### ②事業成果の点検

目標指標	市民活動ポータルサイト平均月間アクセス数(適切な成果指標及びその目標設定が困難なため、活動指標の実績値のみを表記)						単位	件			
目標・実績	目標値	—	達成年度	—	年度	平成29年度	2,866	平成30年度	2,685	令和元年度	2,420
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況: —)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、地域の小さなイベントから市主催のイベントまで様々な地域の情報をできる限り掲載するよう情報収集をこまめに実施したことから、イベント掲載数は増加したが、アクセス数が平成29年以降減少傾向にある。</li> <li>今後は、市民活動ポータルサイトへのアクセス数を増やすため、情報発信の方法を工夫していく必要がある。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性: 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市ホームページやチラシのほか、市報の「市民活動の広場」等により市民活動ポータルサイトの周知を図る。</li> <li>市民活動ポータルサイトに掲載している情報を整理し、必要な情報をより見やすく、検索しやすいサイトとなるよう、見直しを検討する。</li> </ul>										

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	411	427	449	
委託料	411	427	449	
人件費 B	1,427	1,723	2,507	
職員人工数	0.18	0.22	0.34	
職員人件費	1,427	1,723	2,507	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	1,838	2,150	2,956	
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	1,838	2,150	2,956	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	あまがさきチャレンジまちづくり事業費	1E1P	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	あまがさきチャレンジまちづくり事業補助金交付要綱			
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	平成17年度	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
局	総合政策局	課	協働推進課、中央地域課、小田地域課、大庄地域課、立花地域課、武庫地域課、園田地域課	所属長名
				西田 真育、北 明德、仁尾 克己、巽 賢二、奥平 裕久、富田 聡一郎、松原 裕二

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	地域で活動する団体・グループが自立して活動できるよう支援を行うことにより地域活動の活性化を図り、協働のまちづくりを推進する。
事業概要	「地域をよりよくするため市民自ら考え、力を合わせて実施する活動」で公益的なものに対し補助を行うことにより地域社会の連帯を深め、まちづくりの推進を図る。
実施内容	地域の課題解決に向けて、市民主体の団体を取り組む公益的な事業について支援を行う。 1 地域コミュニティ活動支援事業補助(補助金交付額2,953千円(決算額2,941千円)42事業申請、38事業採択) ・対象事業：市内1地区で行う公益的な事業 補助金額：補助対象経費の8/10以内、上限10万円 2 あまらぶチャレンジ事業補助(補助金交付額1,800千円(決算額1,179千円)8事業申請、1事業辞退、7事業採択) ・対象事業：2つ以上の地区にまたがって行う公益的な事業 補助金額：3年コース 補助対象経費の5/10以内、上限30万円まで、1年コース補助対象経費の10/10以内、上限30万円まで 3 あまらぶチャレンジ事業ジュニアコース(補助金交付額200千円(決算額102千円)7事業申請、7事業採択) ・対象事業：市内の高校生グループが行う公益的な事業 補助金額：補助対象経費の10割以内、上限5万円 4 地域活動支援コーディネーター事業(活動実績：計19回(報償費5,000円/回)) 地域コミュニティ活動に知識と経験を有するコーディネーター(公益団体代表等)を地域へ派遣し、地域課と連携して活動団体等へ指導・助言を行うとともに、活動団体間のネットワークの形成を図る。

②事業成果の点検

目標指標	申請団体数(地域コミュニティ活動支援事業補助、あまらぶチャレンジ事業補助) (適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	団体
目標・実績	目標値 55 達成年度 令和4年度 平成29年度 53 平成30年度 49 令和元年度 57		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度と比べるとあまらぶチャレンジ事業補助(ジュニアコース含む)の申請団体数は横ばい、地域コミュニティ活動支援事業補助の新規申請団体は8団体増加した。</li> <li>あまらぶチャレンジ事業補助は、継続年数によって補助割合を変動させることで、市民団体を育成し、事業の自立を促す制度に見直しを行った。また、地域コミュニティ活動支援事業補助については、応募団体の固定化等の課題を踏まえ、申請年数の上限を設けるよう見直しを行った。</li> <li>地域活動支援コーディネーターについては、より地域活動の活性化につながるよう、その活動内容などについて見直しを行った。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あまがさきまちづくりチャレンジ事業は、初動補助を目的とした事業補助であることから、今後は、継続事業や団体の支援、活動推進の手法を別途検討していく。</li> <li>様々な地域活動の支援を行っていただけるよう、地域活動支援コーディネーターの活動内容を周知していく。</li> </ul>		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	4,692	4,766	6,406	
報償費	515	415	625	地域活動コーディネーター報償費等
需用費	74	76	73	浄書印刷等
負担金補助及び交付金	4,064	4,222	5,645	
使用料及び賃借料	8	17	23	ワークショップ会場費等
その他	31	36	40	あまらぶジュニア保険料等
人件費 B	8,116	10,280	11,387	
職員人工数	0.98	1.29	1.50	
職員人件費	7,481	9,965	11,387	
嘱託等人件費	635	315		
合計 C(A+B)	12,808	15,046	17,793	
Gの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	1,692	1,825	2,000	市町村振興協会市町交付金
一般財源	11,116	13,221	15,793	

令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	あまがさき市民まつり事業補助金	1E1R	施策	01 地域コミュニティ
根拠法令	あまがさき市民まつり事業補助金交付要綱			
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成25年	
会計	01 一般会計			
款	10 総務費			
項	05 総務管理費			
目	61 市民活動推進費			
局	総合政策局	課	生涯・学習！推進課	所属長名
				大前 仁哉

①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	市制の誕生を祝う趣旨で始まった市民まつりが、市民に親しまれるとともに、市民まつりの企画運営の中で市民及び市内で活躍する団体が互いにコミュニケーションを深めながら、特定の地域や団体にとらわれない活動が発見になっている状態を目指す。
事業概要	安定的な開催の支援のため市民まつり協議会への補助を行う。
実施内容	市民まつりの実施に当たっては、地域団体の代表者等で構成する尼崎市民まつり協議会実行委員会を組織し、各事業部会に分かれて企画・運営を行った。協議会の事務局については市が担っている。 (事業部会構成) ステージ部会、子どもひろば部会、出店部会、防災・歴史交流ひろば部会、展示部会、だんじり部会、広報部会、警備安全部会 開催日時：令和元年10月6日(日)午前10時～午後7時 開催場所：市役所周辺、中央北生涯学習プラザ

②事業成果の点検

目標指標	市民まつりの参加者数(来場者数)(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)	単位	人
目標・実績	目標値 60,000 達成年度 令和元年度 68,000		
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況：(概ね)達成)</p> <p>会場を5年ぶりに市役所周辺に戻し、早期より広報を行ったことにより、一日開催としては近5年で最も多い68,000人という来場者数となった。しかし、多くの来場者により会場内がかなり混雑したため、今後の開催に向けては会場内の配置など更なる安全面の配慮が必要である。また、より魅力的な市民まつりにするため、市民まつりの代名詞となる催しを企画したり、企画・運営において若い力を求めるなど、市民とのより幅広い協働を実施する必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性：維持)</p> <p>今後も、市民及び市内で活躍する団体が、互いにコミュニケーションを深めながら、活発な活動を行っていくとともに、市民が楽しみながら尼崎市のことを深く知ることが出来るプラットフォームとなるよう企画・運営していく。なお、令和2年度の市民まつりについては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ中止とする。</p>		

③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	3,183	2,500	2,500	
負担金補助及び交付金	3,183	2,500	2,500	
人件費 B	6,207	12,048	14,867	
職員人工数	0.65	1.39	1.72	
職員人件費	5,153	10,808	13,370	
嘱託等人件費	1,054	1,240	1,497	
合計 C(A+B)	9,390	14,548	17,367	
Gの財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	9,390	14,548	17,367	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	尼崎市社会福祉協議会補助金	1E1W	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	尼崎市社会福祉法人助成条例第4条				
事業分類	補助金・助成金	事業開始年度	昭和26年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。				
行政の取組	01-2-1 地域コミュニティの形成のための支援				
局	総合政策局	課	協働推進課	所属長名	西田 真弓

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	尼崎市社会福祉協議会は本市における地域福祉、地域自治の担い手として、重要な役割を果たしており、市が支援することで経営基盤を安定させ活動の充実に資することにより、地域福祉、地域自治のより一層の推進を目指す。
事業概要	地域コミュニティ活動及び地域福祉活動の推進を図るため、尼崎市社会福祉協議会に補助金を交付し、自主財源に乏しい本部、支部社協の運営を側面的に支援するとともに、連絡協議会、単位福祉協会の活動を助成する。
実施内容	<p>尼崎市社会福祉協議会が下記の事業を実施。</p> <p>○尼崎市社会福祉協議会本部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市及び支部社協・連絡協議会・単位福祉協会の事業等の連絡調整・とりまとめ・加入促進に取り組む。</li> <li>・社協会館の移転に向けたアスベスト含有調査の実施。</li> <li>○各支部、連絡協議会共通事業</li> <li>○支部</li> <li>○各種委員推薦等</li> <li>○日赤社資募集事業</li> <li>○共同募金、ともしびの箱募金</li> <li>○チューリップ運動</li> <li>○広域コミュニティ活動</li> <li>○広域福祉活動</li> <li>○緊急通報事業への協力</li> </ul> <p>○連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人給食事業</li> <li>・市民運動事業の地区内とりまとめ</li> </ul> <p>○単位福祉協会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員推薦等への協力</li> <li>・コミュニティ活動の企画実施</li> <li>・福祉活動の企画実施</li> <li>・日赤社資募集事業への協力</li> <li>・チューリップ運動への協力</li> </ul> <p>○善意銀行支店業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人給食グループの活動支援</li> </ul> <p>○地域高齢者福祉推進事業の企画実施、活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等見守り事業への活動支援</li> <li>・婦人会、老人クラブ、遺族会等の事務局</li> </ul>

### ②事業成果の点検

目標指標	社会福祉協議会加入率(適切な成果指標の設定は困難なため活動指標を設定)							単位	%	
目標・実績	目標値	60	達成年度	令和4年度	平成29年度	53	平成30年度	51	令和元年度	49
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況： (概ね)達成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会は、これまでから、様々なふれあい型サービス事業等を実施しており、また、新しいコミュニティの形成においても欠かせない、本市において重要な役割を果たしている住民組織であると評価している。</li> <li>・加入率は減少傾向となっているが、継続して市内への転入者に対し社会福祉協議会の案内チラシを配布しているほか、令和元年度は社会福祉協議会が独自でホームページを大幅に改訂し、今まで以上にわかりやすい情報発信に努めるなど、加入促進の取組を行っている。</li> <li>・加入率は目標値の60%と比較すると概ね達成(80%以上)はできているが、減少傾向にある状況となっており、社会福祉協議会の未加入世帯や、単位福祉協会のない地区等に対する情報発信や、地域コミュニティの活性化などが課題となっている。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性： 維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会や自治会等の活動を担う住民の高齢化や担い手が不足する中、地域コミュニティの活性化に向けて、社会福祉協議会への加入促進に加え、新たな担い手の発掘や多様な地域団体との連携に取り組む。</li> <li>・令和2年度は移転先施設の整備設計等を行い、令和3年度の移転に向け調整を行う。</li> </ul>									

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	103,190	114,397	181,249	令和元年度はアスベスト含有調査、令和2年度は移転先施設の設計及び整備工事費用が含まれている。
負担金補助及び交付金	103,190	114,397	181,249	
人件費 B	3,250	4,464	3,498	
職員人工数	0.41	0.57	0.45	
職員人件費	3,250	4,464	3,498	
嘱託等人件費				
合計 C(A+B)	106,440	118,861	184,747	
○の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他				
一般財源	106,440	118,861	184,747	

## 令和2年度事務事業シート(令和元年度決算)

事務事業名	みんなの尼崎大学事業費	1E1I	施策	01 地域コミュニティ	
根拠法令	—				
事業分類	ソフト事業	事業開始年度	平成26年度		
会計	01 一般会計				
款	10 総務費				
項	05 総務管理費				
目	61 市民活動推進費				
展開方向	01-2 地域活動の促進により、安全・安心で魅力的な地域社会の形成に取り組みます。				
行政の取組	01-2-2 地域コミュニティ活動を担う人材の育成				
局	総合政策局	課	生涯・学習！推進課	所属長名	大前 仁哉

### ①事業目的・事業概要・実施内容

事業目的 (趣旨・対象・求める成果)	みんなの尼崎大学がプラットフォームとなり、市民の主体的な学習や活動の支援を通じて、学びを通じて地域や社会に興味を抱き、地域づくりに取り組もうとする市民が増えている状態を目指すとともに、若年層を中心ターゲットに、身近な地域に対する愛着や関心が高まっている状態を目指す。
事業概要	学びを通じて地域や社会に興味を抱く、また、学びの成果を活動に活かすことのできる環境づくりを進める。
実施内容	<p>1 みんなの尼崎大学事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学びの場をめぐってつなぐ「オープンキャンパス」(206人)と、まちで活動したい人の相談・交流の場「みんなの相談室」(440人)により、市民の学びと活動のステップアップをサポートしたほか、学びの成果を生かす活動の場として、講座を初の完全公募とした「みんなのサマーセミナー」(300超の講座に6,300人)、大学祭「まちじゅう学祭」(58講座に1,900人)を通じて市民等が知識や経験を教え学び合うことができた。また、まちの課題解決策を考えるカードゲーム「ATF2」によりシナシナシップを高める出張授業と職員、教職員向けの指導者研修を実施した。(37回)その他、学生証の発行、パンフレット「大学案内」作成、ウェブサイト・Facebook・メルマガ等の情報発信を行った。</li> </ul> <p>2 インターネット活用事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民問わず学びの情報を掲載できる「授業検索ページ」を運営した。</li> </ul> <p>3 あまがさき・ひと咲きプラザオープン事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あまがさき・ひと咲きプラザのパンフレットの作成及びアマプラ1階拠点整備を行った。拠点整備については、職員や市民がDIYで行うことで場作りともに関係性を構築した。</li> </ul>

### ②事業成果の点検

目標指標	地域活動の中で生涯学習の成果が生かしていると感じる市民の割合							単位	%	
目標・実績	目標値	6.4	達成年度	令和4年度	平成29年度	4.6	平成30年度	3.8	令和元年度	3.2
事業成果 (達成状況等)	<p>【成果と課題】(目標に対する達成状況： 下回った)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなのサマーセミナー」や「ATF2」が他都市で注目され展開される一方で、市内において、目指す姿の共有が十分ではない。みんなの尼崎大学が今後も継続して機能していくためには、改めて議論が必要である。講座主催者にIDを発行して登録してもらうという「授業検索ページ」については、時代に応じた費用対効果の検証が必要である。</li> <li>・「ATF2」については、カードゲームが貸出制のため実施のハードルが高い。職員の出張授業を中心とした展開には規模・期間ともに限界がある。</li> </ul> <p>【今後の取組方針】(事業の方向性： 改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの尼崎大学の位置づけを整理し、今後の方向性を検討する。</li> <li>・「みんなの相談室 職員編」を市役所本庁で開催し、都市基盤や社会福祉といった困難な社会課題に対する新しい協働事例を生み出す。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントや事業の実施が制約される中でも、市民の学びの機会確保として、人権に関する学習や啓発、オンライン等での発信など、工夫の上で実施する。「授業検索ページ」については、その関係サイトとの関係性の整理を含め、見直しを行う。</li> <li>・「ATF2」については、カードゲーム600セットを小中学校等へ配付し、学校現場のプログラムとして定着を目指す計画を持ちつつも、当面は新型コロナウイルス感染症の影響から学校での実施を控え、一般向けにルール説明やカードの貸出に関する動画配信を行う。</li> </ul>									

### ③事業費

	平成30年度決算	令和元年度決算	(参考)令和2年度予算	備考
事業費 A	6,889	9,930	8,472	令和元年度より自治のまちづくり条例推進事業費を統合
報償費	144	60		研修講師謝礼
需用費	100	529	272	消耗品費・印刷費
委託料	3,748	6,326	5,101	みんなの尼崎大学支援業務委託
使用料及び賃借料	2,602	2,626	2,651	授業検索ページシステム利用料
その他	295	389	448	みんなのサマーセミナー負担金等
人件費 B	15,220	22,314	21,133	
職員人工数	1.92	2.60	2.46	
職員人件費	15,220	20,363	19,122	
嘱託等人件費		1,951	2,011	
合計 C(A+B)	22,109	32,244	29,605	
○の財源内訳				
国庫・県支出金				
市債				
その他	98			市民福祉振興基金
一般財源	22,011	32,244	29,605	